



受け継がれる伝統  
金田中学校合唱コンクール

# 未来へ響け、心と絆の合唱

平成10年にはじまって以来、年を追うごとに熱意とレベルが高まり、今や金田中学校を代表する行事となった「合唱コンクール」。  
金田中の歌声を本手に、合唱の練習を重ねる高校もあるほど、音楽関係者や近隣の学校からも、その完成度の高さが評価されています。そんな誇りある学校行事に向かって、全力で取り組む3年生の姿を追いました。



コンクール当日、ぼろぼろになったクラスごとの楽譜は長い練習の日々のあかし。



夏休みまで個人練習、9月から本格的な練習が始まった。  
①3年生は1学級24人の3クラス。クラスがそれぞれ3~4のパートに分かれた。②練習期間中、実行委員が4回発行した「合唱新聞」。③男声は「やわらかく優しい声」を出すことに大苦戦。④朝と放課後の練習はもちろん、休み時間や登下校時にも歌声が響いた。



⑤連日の練習を除で支えた保護者、夜間練習では夕食を振る舞った。⑥先生がたの指導で課題を一つひとつ解決。⑦本番が近づき、表情もより真剣に。全員の心がまとまっていく。



11月3日、本番。⑧コンクール全部門終了後、3年生全員で「ギフト」を熱唱。⑨金賞受賞学級の中からグランプリを獲得した3年1組。⑩「時を経てまたこのメンバーで歌いたい」そんな固い絆が生まれた。

## 伝統と感動を受け継いで

7月初旬に曲を選び、夏休み中は一人ひとりがCDで曲覚え、2学期が始まると、自主練習の歌声が連日校内の至るところから聞こえてくる金田中。この学校では、年のおよそ3分の1が、合唱コンクール一色に染まります。そこまで生徒たちを突き動かすもの、それは何なのでしょう。昨年12月に開催された、福智町わたしの主張大会で、金田中の合唱コンクールのすばらしさを訴えた井塚花純さんは「1年前、3年生の合唱を聞いて、これが本当に中学生の合唱なのか」と圧倒されました。歌も表情もすべてが完璧。多くの生徒が涙を流しました」と感動を振り返ります。

## 歌は一瞬、絆は永遠

先輩の意志を継いだ一人ひとりが、更なる高みを目指し、いつしか「全クラス金賞」が3年生全体の目標になっていました。しかし、その道のりは当然険しく、幾重の困難にぶつかっていきます。選曲の際「かなり難しいけれど、やり

## 未来へつなぐ誇り

練習の日々をとおして大きく成長した生徒たちは、合唱コンクール当日の

生徒は自分たちの合唱に妥協点を作らず、常に上を目指して練習してきました。それが自信につながり、自分たちの誇りとなっているので、「歌わされている」のではなく、歌を自ら生き生きと表現することができるのだと思います。



担当教諭 河野康世先生

どのクラスにもドラマがあり、困難を一つひとつ乗り越えながら団結していきました。合唱は、一人では決して作り上げることはできません。だからこそ、一人では得ることのできない感動を味わうことができるのだと改めて感じました。



実行委員長 荒川奈都音さん

